

リンゴ中生種 ‘世界一’

研究のねらい

‘紅玉’、‘ゴールデンデリシャス’に替わる中生種を育成する。

研究の成果

選 抜 理 由：食味が良好な大玉品種として選抜された。

組み合わせ：‘デリシャス’×‘ゴールデンデリシャス’

交 配 年 次：1930年（昭和5年）

発 表 年 次：1974年（昭和49年）、園芸学会にて発表

命名の由来：対馬竹五郎氏（元青森県りんご育種同好会長）が「世界一大きいリンゴである」と宣伝したのがきっかけで、命名された。

樹 の 性 質：樹勢は強く、若木の時期は直立性である。結実年齢に達するのが遅く、隔年結果性が強い。ジューンドロップ及び収穫前落果がある。斑点落葉病と黒星病には‘ふじ’よりやや弱い。霜害に弱い。

収 穫 時 期：10月中旬

果 実 特 性：1果重は500g前後でかなり大きく、果形は円錐形である。果色は鈍紅色で紅色の縞が入る。果肉は黄白色でやや硬く、ち密で果汁が多い。食味は甘く、芳香がある。果実を大きくしすぎると、ビターピットが多発する。冷蔵での貯蔵性は大玉では年内、中玉では2～3月末頃までである。



発表資料

1. 山田三智穂ら（1974）. リンゴ新品種1号（俗称世界一）について. 園学要旨. 昭49 秋：2-3.
2. 山田三智穂ら（1989）. リンゴ‘世界一’について. 青森りんご試報 25：61- 72.